

三人 御扶持方割、棟取役共
 一人 入立役
 二人 御算用所棟取共
 一人 御入用仕立役
 御書役
 御服所
内一人寶永五六年頃
 相詰不申候。
 寶永五六年頃より相
 詰不申候。
 十一人

右寶永二三年會所役人詰人高御座候。并足輕・小者之儀は、
 右之頃人高會所に而相知不申候。以上。

九月十一日

西 村
 中 村

品川主殿様
 郡彌三兵衛様
 平田外記様

右紙面指出候處、御用人中被申聞候者、足輕・小者之儀は
 割場より書出知居申事に候由被申に付、大銀・小拂所など之
 儀は、足輕・小者會所にて受取候内に而御座候而書出不申旨、
 右奉行中申候旨申達候所、大がね・小拂・吳服も右割場より

之書出に而知候故、何茂不及書出旨被申聞候事。

當時江戸會所役人

大銀奉行御小將二人 留書・小遣無之。會所留書之内一
 人主付相勤置、小遣は會所詰合之
 内に而勤。
 小拂奉行御小將二人 留書足輕二人。小遣は會所詰合之
 内に而相勤る。

御服奉行御小將二人 留書足輕四人。泊番相勤小遣一人
(吳)
 御料紙裁許與力二人 留書無之、小遣一人。
 買手役與力二人 但、御歩三人に而元文三年より相
 勤申候所、其後改如先規與力相勤
 候。留書・小遣無之、御用承町人手
 代等罷出相勤候。小遣用事候へば、
 會所詰合より相勤候。

直段聞役與力二人

棟取役御算用者一人 相見役足輕二人相勤候。
 物書御算用者一人 金澤定役三人之内交替相勤候。

下行所同斷三人

内一人は御算用場定役棟取之内相
 勤候。

算用所同斷二人

右同斷

御入用仕立同斷一人

御預け地方定役之内より繰々相
 勤、御預地方御用有之候得者遣候。

炭薪裁許

足輕二人

木具裁許

同一人

古物裁許

同一人内一人加人

留書足輕定役三人外に加人二人

定役八人之交代

紙細工足輕四人

但、役所は御作事に有之、勤方は
 會所捌

深川御米裁許

直段聞與力二人兼役相勤候。先規
 は御大小將一人・與力一人相勤候
 所、元文三年より相改如斯。

但、御帳附與力より相勤候儀。

一〇 紙渡方之儀覺

覺

一、越前上大高檀紙
 右は御献上御目錄并堂上方に、押立候節用之。

但、右之通故員數も少候條、疵すれ等有之候而は御費
 に候間、随分吟味可有之候。

一、奈須檀紙

右は武家方御祝儀之目錄、并堂上方常之御目錄用之。
 右之通相極り候條、向後御右筆所渡方可被得其意候。

一、御廣式向并御前様方御用茂右同事可被相渡事。

右紙面延享三年寅三月廿七日、於御次武田李左衛門被相渡
 候事。

一一 小袖中入綿被下方覺

御家中御歩並以下に被下候小袖中入綿之事

一、御預地方御廻米御用相勤候者に被下候綿之事。

一、御拜領之御鷹請取に罷越候者に右同斷。

一、御國に從他國御使者來候節、右御用相勤候者に右同斷。

一、御國より他國に御使者に指添罷越候者に右同斷。